

中学地理プリント（過去問類似）

九州地方

名前

得点

/8

問1 かつて官営八幡製鉄所を中心に鉄鋼業の拠点として発展した福岡県北部の港周辺では、大きな産業構造の変化が見られます。1970年と2015年の輸出品目を比較した資料によると、1970年には鉄鋼が輸出額の第1位でしたが、2015年には半導体等電子部品が第1位となっています。このような特徴を持ち、周辺では工場跡地の再開発によってテーマパークなども建設されている港はどこですか。（2017年 東京都公立入試 類似）

1. 北九州港 2. 名古屋港 3. 富士港 4. 成田国際空港

問2 九州地方南部に広がる「シラス台地」と呼ばれる火山灰の台地において、大規模な稲作よりも豚や鶏などの畜産業が盛んに行われてきた理由として、最も適切なものはどれですか。（2016年 高知公立入試 類似）

1. 火山灰が堆積した地層は水はけが良すぎて、稲作に必要な水を保持することが困難であったため 2. シラス台地は標高が高く、夏季の気温が稲の成長に必要な水準まで上がらないため 3. 台地の土壌に塩分が多く含まれており、塩害に弱い稲の栽培が不可能であったため 4. 大規模な灌漑設備を整えるよりも、家畜の餌となるトウモロコシの栽培の方が容易であったため

問3 九州地方において肉用牛の産出額が非常に高い背景には、南九州を中心に広がる地形的要因があります。火山噴出物が積み重なってできたこの台地は、水持ちが悪く稲作に不向きであったため、古くから畜産業や畑作が発展してきました。この台地の名称として適切なものはどれですか。（2021年 神奈川県公立入試 類似）

1. シラス台地 2. 根釧台地 3. 牧之原台地 4. 武蔵野台地

問4 宮崎県などの温暖な気候を利用する地域で盛んに行われている、ビニールハウスなどの施設を用いて野菜の成長を早め、通常の収穫期よりも早い時期に出荷する栽培方法を何といいますか。（2023年 富山公立入試 類似）

1. 促成栽培 2. 抑制裁培 3. 近郊農業 4. 有機農業

問5 九州地方南部の鹿児島県や宮崎県では、火山噴出物が積み重なってできたシラス台地が広く分布しています。この地域で、稲作ではなく豚や肉用牛などの飼育を行う畜産業が盛んになった理由として、地形の性質に触れた説明として最も適切なものはどれですか。（2020年 香川公立入試 類似）

1. 土壌の水はけが良すぎて、水田に必要な水を保持することが難しかったため 2. 標高が極めて高く、夏季の気温が上昇しないため稲の生育に適さなかったため 3. 急峻な傾斜地が多く、機械を導入した大規模な耕作が困難であったため 4. 平坦な土地がほとんど存在せず、家畜を放牧するスペースしか確保できなかったため

問6 九州地方の筑紫平野に関する説明として、温暖な気候や土地の高度な利用方法の観点から、最も適切な説明はどれですか。

（2026年 和歌山公立入試 類似）

1. 稲作の収穫が終わった後の水田を裏作として活用し、小麦などを栽培する二毛作が盛んである。 2. 1年のうちに同じ水田で2回米を収穫する二期作を行い、食料自給率の向上に貢献している。 3. ビニールハウスを利用して夏野菜の成長を早める促成栽培を行い、冬の出荷額を高めている。 4. 連作障害を防ぐために、数年ごとに栽培する作物を入れ替える輪作を大規模に導入している。

問7 沖縄県の産業構造において、製造業などの第二次産業の割合が低く、サービス業や小売業などの第三次産業の割合が突出して高い理由として、適切なものを選択してください。（2019年 愛媛公立入試 類似）

1. 亜熱帯の気候や独自の文化を求めて国内外から多くの観光客が訪れ、観光関連産業が県の経済を支えているため。 2. 広大な平野を利用した機械化農業が推進され、農産物の加工から販売までを行う第六次産業が製造業に代わっているため。 3. 県外からの輸送コストが高いため、原材料を輸入して製品を輸出する加工貿易型の工業が全く発達しなかったため。 4. 政令指定都市を中心とした都市圏が形成され、情報通信技術（ICT）関連の製造工場がすべて県外に移転したため。

問8 福岡県の工業出荷額に占める産業別割合を示した統計において、機械工業に次いで大きな割合を占め、北九州工業地域の沿岸部に工場が集中している産業の名称を答えなさい。（2020年 静岡公立入試 類似）

1. 化学工業 2. 金属工業 3. 食料品工業 4. せんい工業

答え合わせ・解説

問1	答え 1 北九州港	福岡県北部に位置するこの地域は、明治時代の官営八幡製鉄所の操業開始以来、北九州工業地帯の中核として日本の重化学工業を支えてきました。しかし、時代の変化とともに産業の主役が鉄鋼業から半導体や医療機器などの高付加価値製品へと移り変わっており、これを産業構造の変化と呼びます。広大な工場跡地はスペースワールド（現在は閉園し、新たな施設へ移行）などのテーマパークや商業施設に活用される再開発が行われてきました。
問2	答え 1 火山灰が堆積した地層は水はけが良すぎて、稲作に必要な水を保持することが困難であったため	九州南部に広がるシラス台地は、過去の火山活動によって噴出した火砕流堆積物からなる台地です。この土壌は水分を保持しにくい「水はけが良い」という性質を持っており、水田に水を溜めることが難しいため、古くから稲作には不向きとされてきました。その結果、水が少なくても育つサツマイモなどの畑作や、広大な土地を利用した豚・鶏などの畜産業が発展しました。
問3	答え 1 シラス台地	鹿児島県から宮崎県にかけて広がるシラス台地は、火山の噴出物（火山灰など）で構成されています。水はけが良すぎて水田に適さなかったため、肉用牛や豚、鶏などの畜産や、サツマイモなどの畑作が盛んになりました。ちなみに根釧台地は北海道の酪農地帯、牧之原台地は静岡県の茶の産地です。
問4	答え 1 促成栽培	宮崎県や高知県といった冬でも温暖な地域では、その気象条件を活かして他の地域より早く作物を育てる工夫がなされています。ビニールハウスなどを活用することで、本来の旬よりも早い冬から春にかけて出荷することが可能になります。
問5	答え 1 土壌の水はけが良すぎて、水田に必要な水を保持することが難しかったため	鹿児島県から宮崎県にかけて広がるシラス台地は、過去の火山活動による噴出物が堆積して形成されました。この土壌は粒子が細かく非常に水はけが良い（保水力が低い）ため、稲作に不可欠な水を溜めておくことが困難でした。このような地理的条件から、水不足に強いサツマイモや茶の栽培、そして広大な台地を有効活用できる畜産業が発展し、現在では日本屈指の畜産地帯となっています。
問6	答え 1 稲作の収穫が終わった後の水田を裏作として活用し、小麦などを栽培する二毛作が盛んである。	筑紫平野は九州最大級の平野であり、温暖な気候と豊富な水資源を背景に農業が非常に盛んです。特に、米の収穫後の水田で小麦や大麦を育てる「二毛作」は、土地を1年を通じて有効活用する代表的な手法です。二期作は主に米を2回作ることを指し、促成栽培は宮崎平野などのビニールハウス農業でよく見られる形態であるため、筑紫平野の土地利用の説明としては、裏作での小麦栽培（二毛作）を挙げるのが適切です。
問7	答え 1 亜熱帯の気候や独自の文化を求めて国内外から多くの観光客が訪れ、観光関連産業が県の経済を支えているため。	沖縄県は、その温暖な気候や青い海、琉球王国時代からの独自の伝統文化といった観光資源を最大限に活用しています。ホテル業、飲食業、交通機関などの観光に関連するサービス業（第三次産業）が雇用の受け皿となっているため、就業者割合が極めて高くなっています。これに対し、本州のような大規模な重化学工業の集積が少ないため、相対的に第二次産業の割合が低くなっています。
問8	答え 1 化学工業	北九州工業地域は、鉄鋼業（金属工業）から発展した歴史がありますが、現在は機械工業や化学工業が工業出荷額の中で重要な役割を担っています。特に化学工業は、広大な敷地と港湾施設を必要とするため、地図上の工場分布を確認すると、内陸部よりも沿岸部に記号が集中していることがわかります。これは原料の輸入と製品の輸出を効率化するための典型的な臨海型工業の特徴です。